

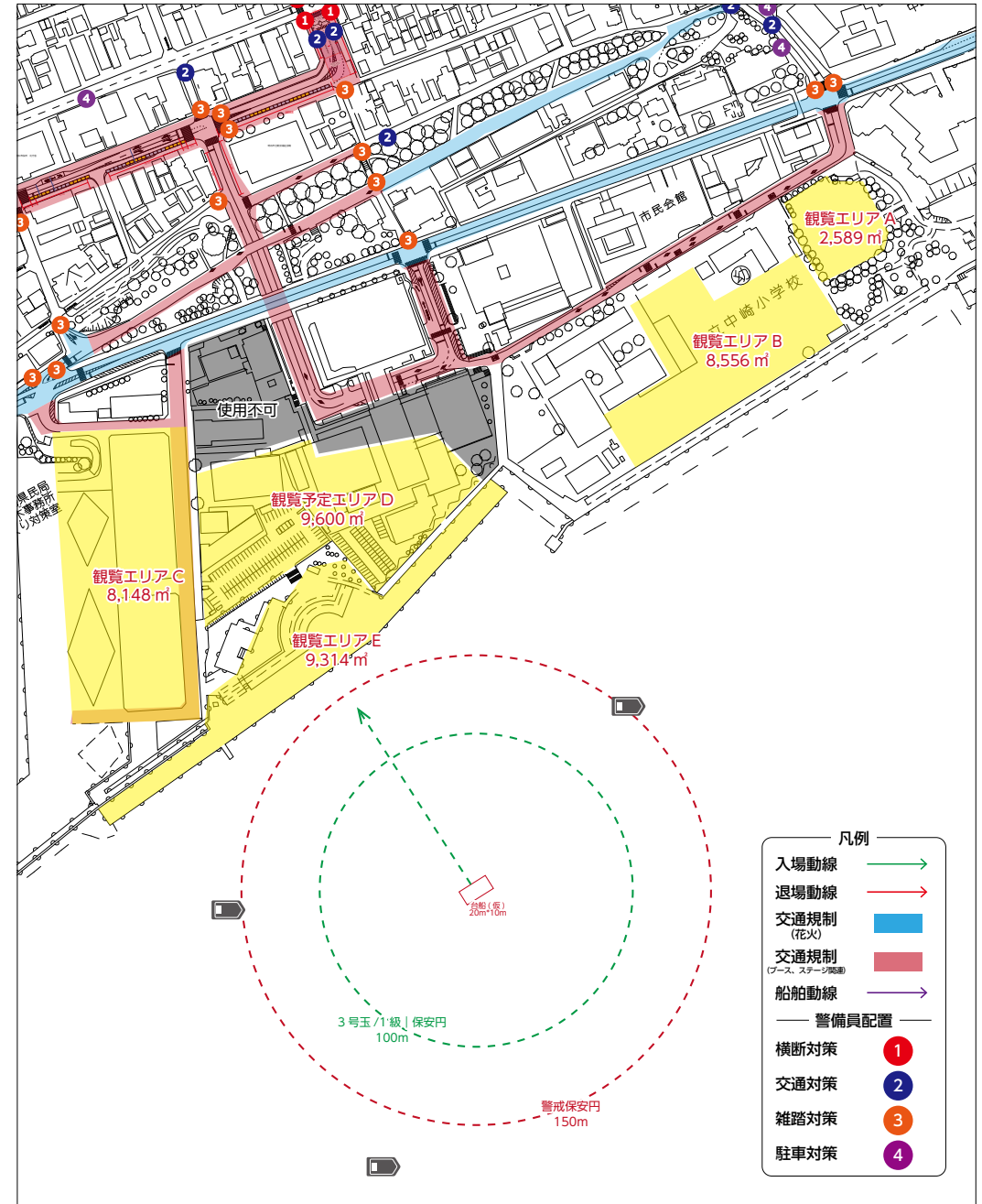
分散型（B案）の1ヶ所目の候補として、1日花火（A案）明石市役所同様の中崎展望広場をメインの観覧会場とし、中崎展望広場沖を打ち上げ場所として設定。

全体概要

花火の打ち上げ数750発（最大3号玉：保安距離100m）を仮定し、その他は1日花火（A案）と同様の運営体制や警備配置が必要となると考えている。

- 会場分散型になっても、ブース、ステージイベントの同時開催が前提となっているため、アクティブ層の市民の多くは明石市役所周辺のブース、ステージイベントと花火を楽しむと考えられる。
- 明石海峡大橋とのロケーションなど兵庫県の海岸部では見られない特別なロケーションでの打上となるため、明石市民だけでなく阪神間を中心に多くの来場者がこのエリアに見込まれる。
- 阪神間からの交通アクセスの良い主要駅から徒歩圏内に観覧会場が位置している。
- JR明石駅、山陽電車明石駅と2路線あり、東西からの待ち合わせなどに適しロケーションとして人が集まりやすい。
- 明石市の主要観光場所となる魚の棚商店街なども近くにあり、長時間明石市で楽しむことができる。
- 周辺に飲食店も多く、花火終了前後も短い移動距離で楽しむことができる。
- 他の会場に比べ以前に来街した経験がある方が多く、土地勘などがあり来場までのイメージが付きやすい。

上記の理由から、例えば花火規模を縮小したとしても、来場者が減る要因にはならないと考えているため、少なくとも開催初年から数年は1日花火（A案）同様の体制がこのエリアには必要と考えられる。さらに、国道2号線を跨ぐ動線となるため、収容人数を超えたり、想定している以上の来場者が訪れた場合、国道2号線や周辺道路への影響は避けられず、広範囲にわたり影響がでる可能性がある。



B 案 / 2
林崎漁港周辺

分散型(B案)の2ヶ所目の候補として、メインを望海浜公園グラウンド、公園南の海岸、その他川端公園を観覧場所、林崎漁港ベランダから東に突き出た防波堤を打ち上げ場所として設定。

全体概要

花火の打ち上げ数750発(最大3号玉：保安距離100m)を仮定し、メインの観覧場所を望海浜公園グラウンド、公園南の海岸、集合住宅も多く人口密集地のためサブの観覧場所として川端公園を主催者からの観覧場所として設定。打上場所は林崎漁港ベランダから東に突き出た防波堤とし、メインの観覧場所から一番花火が綺麗に見えるように配置した。

漁港側(漁港内、ベランダ)からの観覧なども想定できるが、漁港作業への影響、警戒保安円内に動線がかかり風向きによっては花火カスの影響、転落事故にもつながる恐れがあるため、漁港への観覧者の進入対策をおこなう。さらにプレジャーボートの警戒保安円への進入防止、海上交通の安全確保の役割で3隻を円面上に配置。河川の対岸となる明石港中外港南防波堤のベランダからの転落対策として1隻。合計4隻を会場に配置。

現地本部

現地本部は望海浜公園グラウンド内に、主催責任者、運営責任者、警備責任者、また安全に必要な行政機関の現地管理場所として設置。(テント3張程度を想定)

観覧者

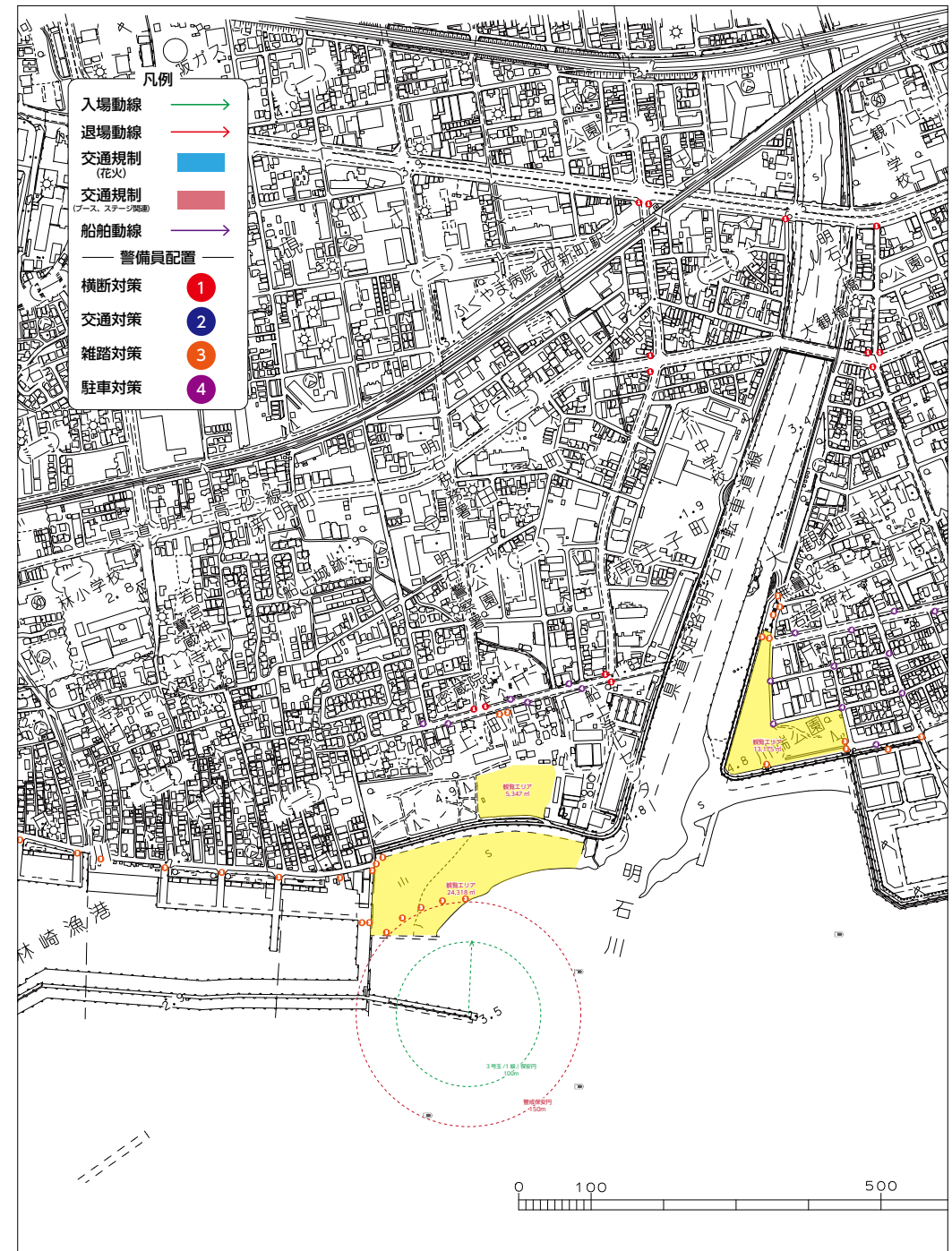
地元住民を中心とした観覧者に加え、周辺駅に山陽電車 西新町駅、またJR明石駅からも徒歩で来場が可能である。また、道路幅員も整備され広く住宅街へ駐車をし観覧をおこなう者も想定されるため、広く駐車対策などが必要となってくる。

海上対策

他の打ち上げ場所に比べプレジャーボートなどでの観覧は少ないと想定されるが、東側の明石市役所沖、西側の江井島港、二見港の海上が混雑した場合は、このエリアに移動してくることも考えられる。そのため、海上交通の整理、保安距離確保のため警戒保安円上に警戒船を配置している。

実施に向けての課題

- 広く整備された道路が近いので駐車対策などが必要
- 駐輪場の確保が必要
- 林崎漁港に進入する観覧者も容易に想定できる。船具、漁具にも影響がでるため漁港への進入防止策が必要
- 会場の間口が1ヶ所で一斉退場などは混乱が生じる恐れがあるため、終了後の対策が必要となってくる
- 対岸明石港ベランダからの海上転落防止策

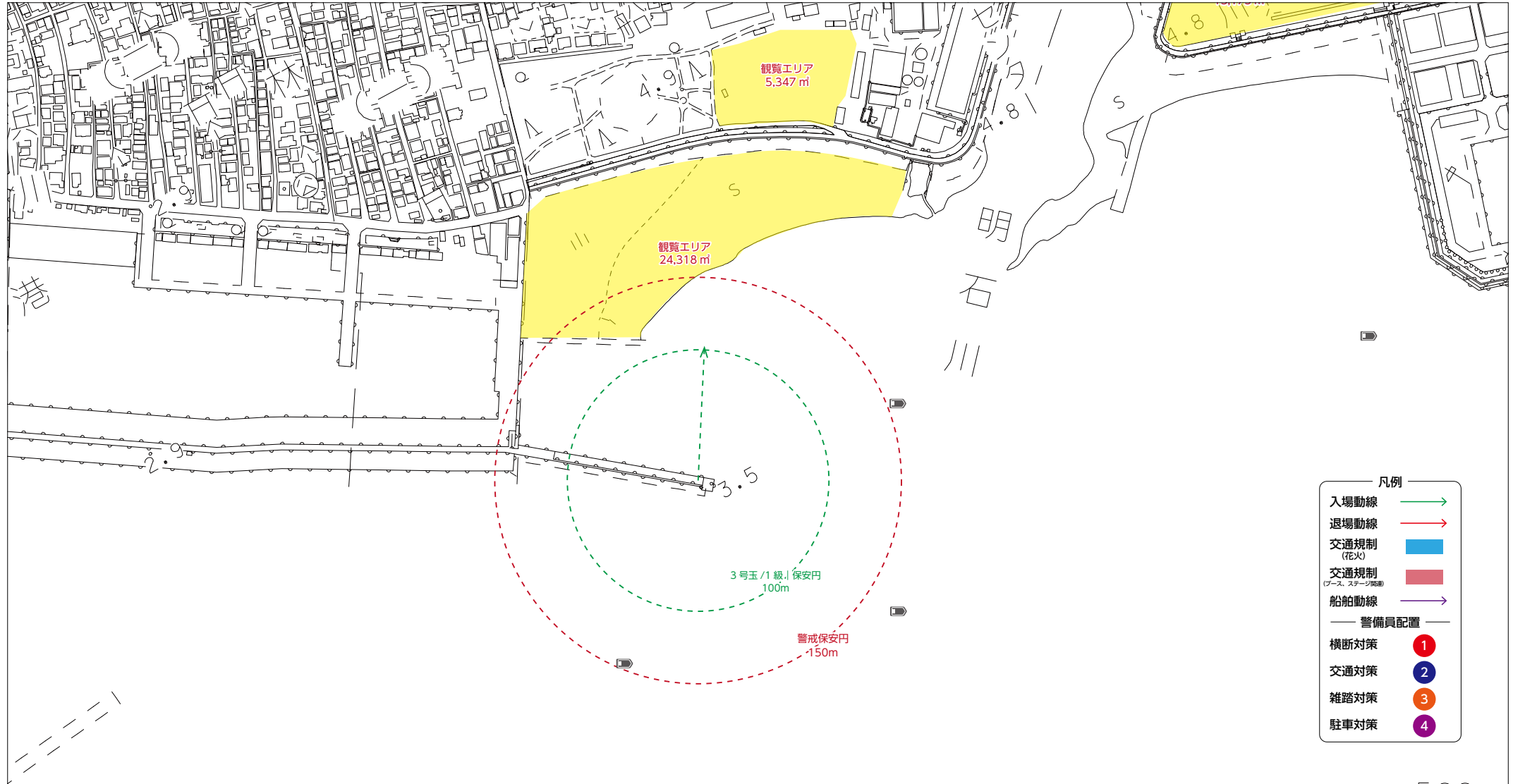


打上場所

打上場所は林崎漁港ベランダから東に突き出た防波堤（陸上）からの打上を想定。陸上も保安距離内となるため、陸上の保安距離確保が必要。また花火（小型煙火など）を望海浜公園南の観覧場所に向け、観覧場所から打上花火の全体が楽しめるようにし、観覧場所での観覧を促している。

保管距離

3号玉2級で想定し保安距離は100mを周辺に確保。さらに警戒保安円を半径150mで確保。警戒保安円上に警戒船を配置し、一般のプレジャーボートなどの進入に備え警戒をおこなうバウファを設けた。



観覧場所の詳細

名称 / 望海浜公園グラウンド 所在地 / 〒 673-0026 兵庫県明石市船上町 783 - 76 面積 / 約 5,347㎡ 交通 / 最寄り駅に山陽電車西新町駅
 名称 / 望海浜公園南海岸 所在地 / 〒 673-0026 兵庫県明石市船上町 1 面積 / 約 24,318㎡ 交通 / 最寄り駅に山陽電車西新町駅
 名称 / 川端公園 所在地 / 〒 673-0897 兵庫県明石市大観町 21 面積 / 約 13,175㎡ 交通 / 最寄り駅に山陽電車西新町駅、JR 明石駅

最大観覧人数

上記有効面積から安全レベルである群衆密度 2 人で計算 | 望海浜公園グラウンド / 1.1 万人 川端公園 / 2.6 万人
 上記有効面積から安全レベルである群衆密度 1 人で計算 (出入口が限定的、一部警戒保安円内のため) | 望海浜公園南海岸 / 2.4 万人
 林崎漁港エリアの最大許容人数は合計約 6.1 万人と想定



入退場動線

(望海浜公園・川端公園)

入退場間口が広い公園のため入退場の動線は限定せず、周辺道路の影響が出ないよう横断対策や駐車対策などをおこなう。自転車での来場者も多く想定され、広い駐輪場などの確保も必要となってくる。周辺道路も交通量が多く、乱横断による事故の危険性もあるため広く交通対策をおこない、周辺環境に影響のでない体制を前提としている。また公共交通機関の来場者の多くは、西新町駅、明石駅からの来場が見込まれ、打ち上げ終了後の退場する観覧者の列が細長くなるであろうエリアまでの横断管理をおこなっている。

(望海浜公園南海岸)

入退場出入口が1ヶ所しかなく、入場時については時間をかけてゆっくりと観覧者が入場することが想定できるが、退場時については出口に集中するため、出口に向けての雑踏が発生することが想定される。ブロックを分けての退場や出口にむけて長い動線を設定するなどの安全な退場方法の対策が必要となる。

安全対策 (駐車)

広い幅員で整備された道路が多く駐停車しやすいため、観覧場所周辺一带に交通対策の警備員を配置。

安全対策 (観覧)

(全体)

打上を想定している花火の規模や場所などを勘案し全体としては十分な観覧会場の確保はおこなっているが、交通量の多い道路も多く歩道などからはみ出したり、乱横断をおこない交通事故を誘発することも十分に考えられる。主要駅まで十分な距離があることから観覧者の帰路列は離れば離れるほど細長くなると思われるが、主要駅までの横断対策警備員や遊撃警備員などで南北の退場動線を管理することが必要であると考えている。

周辺漁港対策

(林崎漁港) 漁港内で一般観覧者が観覧をおこなうと踏みつけなどによる船具、漁具の破損が容易に想定できるため、一般観覧は禁止とし、漁協関係者以外は立入の制限をおこなう。林崎漁港は横にも広く入口が定まっていない箇所が多くあるため、横一带に警備員を配置し入場管理を行う必要がある。そのため、漁協へ事前相談において開催に向けての趣旨や対策への合意があることを前提としている。また、林崎漁港東側の一部は警戒保安円やベランダへの立ち入りルートとなっており、西側については安全面から保安手帳所持者以外の立入を制限することとなる。

(明石港) 打上場所から河川を挟み対岸となる明石港も絶好の観覧スポットとなるが、急な壁面や手すりのない壁面の上を歩いて移動することができたり夜間を前提と考えると危険な場所が多い。ベランダエリアも岸壁一带にあるが狭く細長く、加えて出入口も限定されていることから大人数が集まる観覧場所としては適切でないと考えている。そのため、明石港も同様に漁協へ事前相談において開催に向けての趣旨や対策への合意があることを前提として、一般観覧者の入場を制限するなどの対策をおこなう。すでに釣りなどをおこなっている者については退場は促さず、ある一定の時間から入場ができないなどの対応をおこなう。それでも、柵などを乗り越えて入場するなどのケースも想定し、海上に転落防止対策の船舶を1隻配置し海上安全にも配慮をおこなう。



望海浜公園南海岸の来場者管理

エリアとしては十分な観覧会場が用意できているが、小型煙火などが見にくいエリアが多く、打ち上げ場所全体を見渡せ、かつ花火までの距離も近い望海浜公園南側海岸に人が集中する恐れがある。会場全体がフェンスで囲まれ入場管理が容易な反面、出口が1ヶ所のため退場時の混雑などにも課題があり、一定の来場者コントロールをおこない安全を確保することが必要である。

会場収容人数を超えた際の対応

会場収容人数を超えた際は、入場口を閉鎖し入場者コントロールをおこなうと同時に、来場者観覧者の次の観覧場所の案内が必要となってくる。望海浜公園・川端公園への案内がスタンダードとなるが、川端公園などは徒歩では距離も遠いため、事前に来場者のコントロールができる方法を検討する必要がある。

1. 観覧場所を有料化し来場者を限定的とする

有料観覧会場とし、事前にプレイガイドなどを活用しチケット購入者のみが入れるエリアとして運用する。これにより来場者が限定的となるだけでなく、有料エリアのため無料での観覧者やチケット未購入者はこの会場に入れないため、周辺においても参集することが少なくなると考えられる。観覧においてもパイプ椅子を設置しブロック分けすることで、一斉退場が起こらずブロック退場が可能となり混雑を回避した運用が可能となる。ただし、有料エリアとすることで、仮設トイレ、入退場管理スタッフ、備品関係の設営費などのコストも必要となってくるなどの課題もある。

2. 市民優待エリアとし来場者を限定的とする

市民優待エリアとし事前に当選した方のみが入れるエリアとして運用する。これにより来場者が限定的となるだけでなく、有料エリアのため無料での観覧者やチケット未購入者はこの会場に入れないため、周辺においても参集することが少なくなると考えられる。申込方法や申込者の市民資格の照会方法など課題は残るが、観光資源としてではなく市民のための花火としての機運を形にすることができる。

3. カメラ OK エリアとし来場者を限定的とする

花火大会ではカメラマンも多く訪れ様々なロケーションから撮影をおこなう。その際三脚や一脚などを使いスペースを多くとることから他の来場者とトラブルになることも多い。花火の取組みの一つとして、カメラエリアとして活用し撮影機材などの設置も許可し、花火のトラブルの種をこのエリアに集約することで、来場者コントロールと観覧客マナーの向上を狙うものである。ただし、現状の花火位置では明石海峡大橋などが入りにくいいため、実施の際は花火位置などの調整が必要となってくる事が考えられる。



幕張ビーチ花火フェスタ2019 第41回千葉市民花火大会
市民優待席ご応募の抽選の結果、**当選**いたしました。

この度は「幕張ビーチ花火フェスタ2019 第41回千葉市民花火大会」市民優待席にご応募いただきありがとうございました。抽選の結果、ご当選されましたので、ご案内いたします。

5人 当選人数

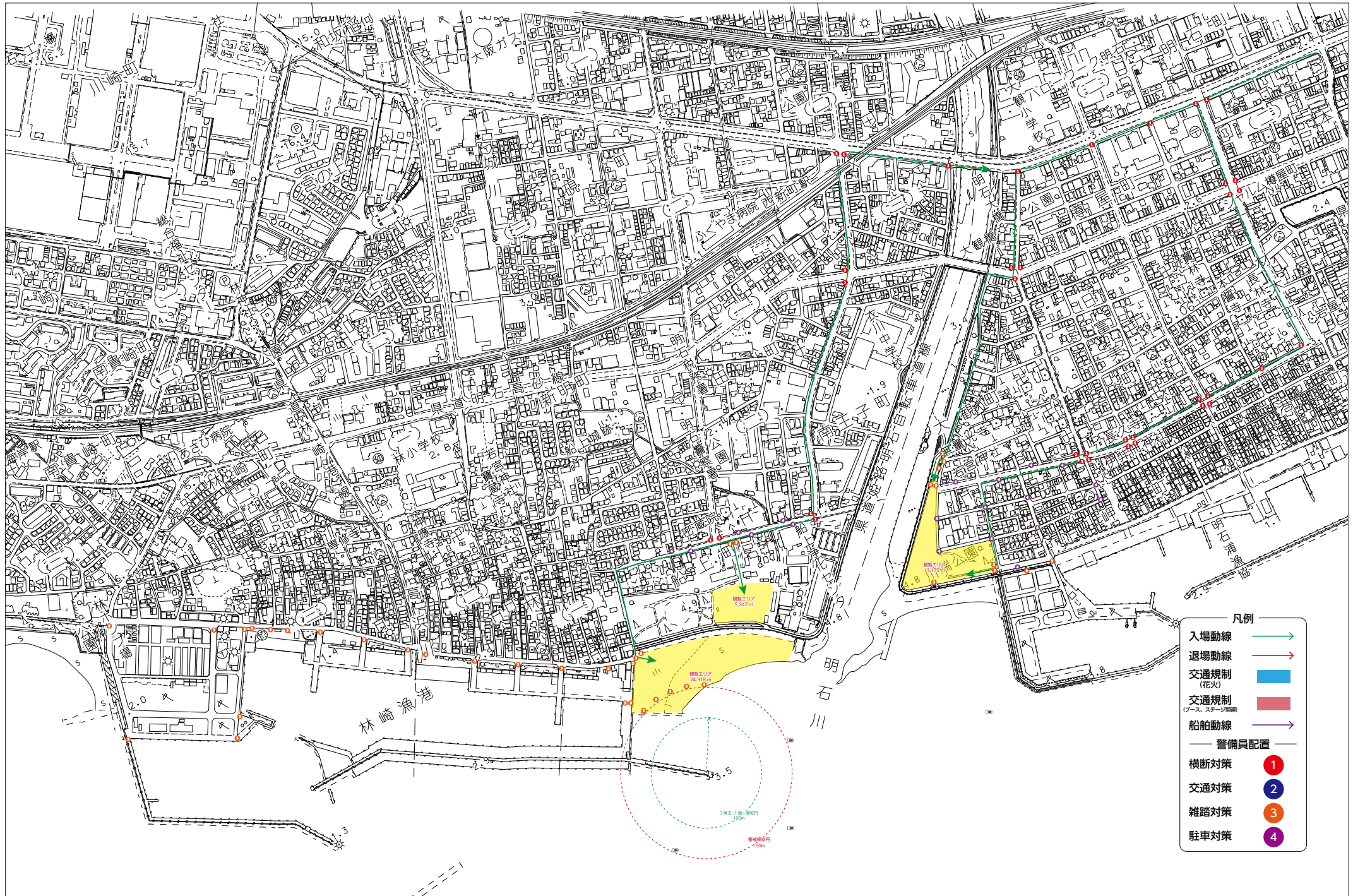
裏面の「当日ご来場時の注意事項」をよくお読みいただき、必ずこちらの「当選はがき」をご持参の上、会場へお越しください。

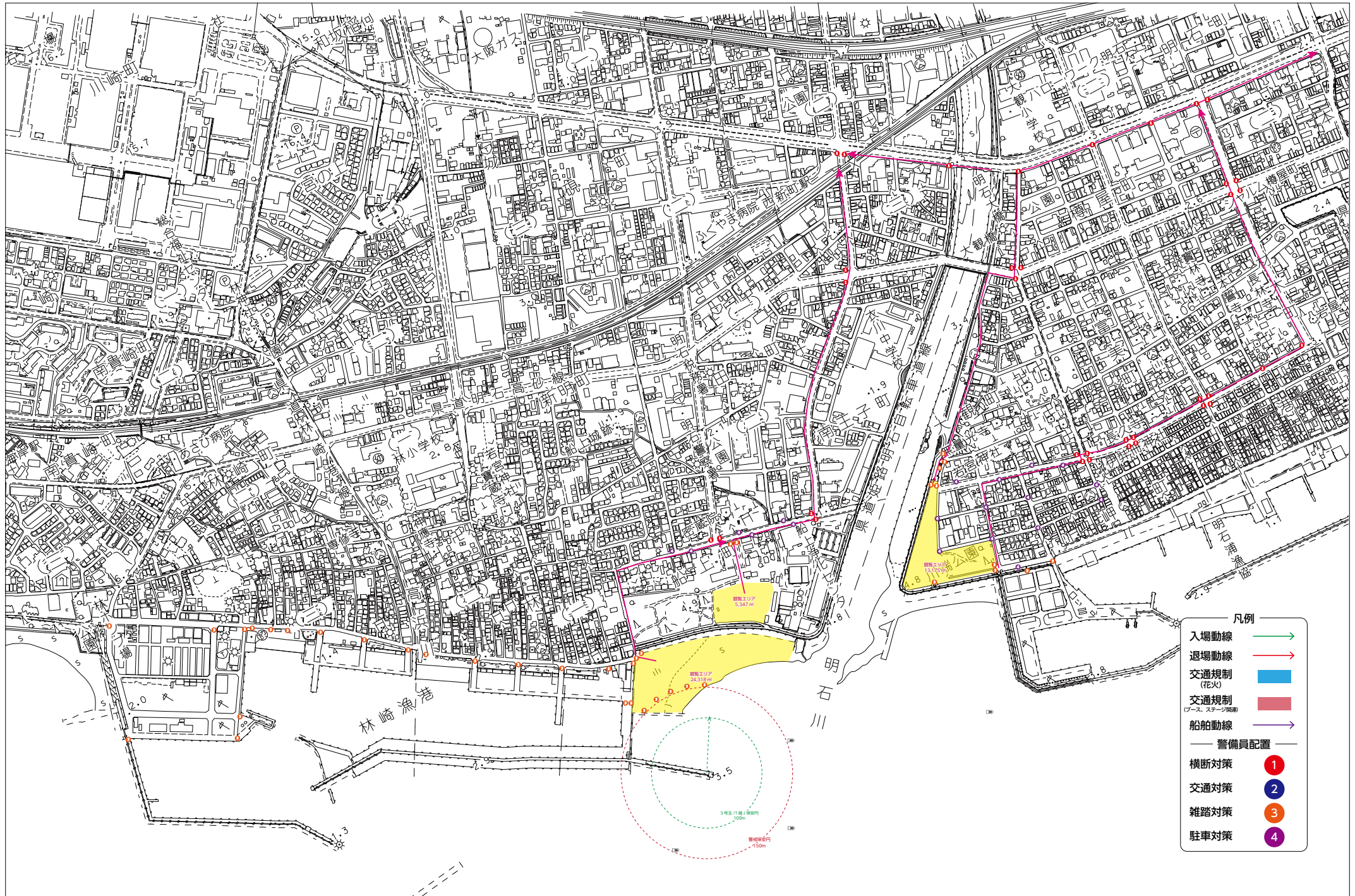
令和元年7月吉日
千葉市民花火大会実行委員会



調査時点の警備配置案や必要最低限必要となる主催者人数、警備員人数、運営スタッフの人数。

カテゴリ	役割	人数
主催者	会場管理（会場管理責任者、陸上警備責任者、海上警備責任者）	6人
警備	本部員 / 会場警備本部に待機	3人
	横断対策員 / 周辺道路の横断対応や乱横断の防止対応	35人
	雑踏対策員 / 観覧エリアではない場所や危険個所の観覧者排除など	39人
	駐車対策員 / 駐車禁止エリアや交通混乱を招く駐停車の排除など	19人
	交通対策員 / 交通規制の対応や交通に関する全般対応など	0人
	遊撃警備員 / 想定外の対応や既存配置の警備員のサポートなど	20人
小計		116人
運営	会場管理、事後清掃などをおこなうスタッフ	15人





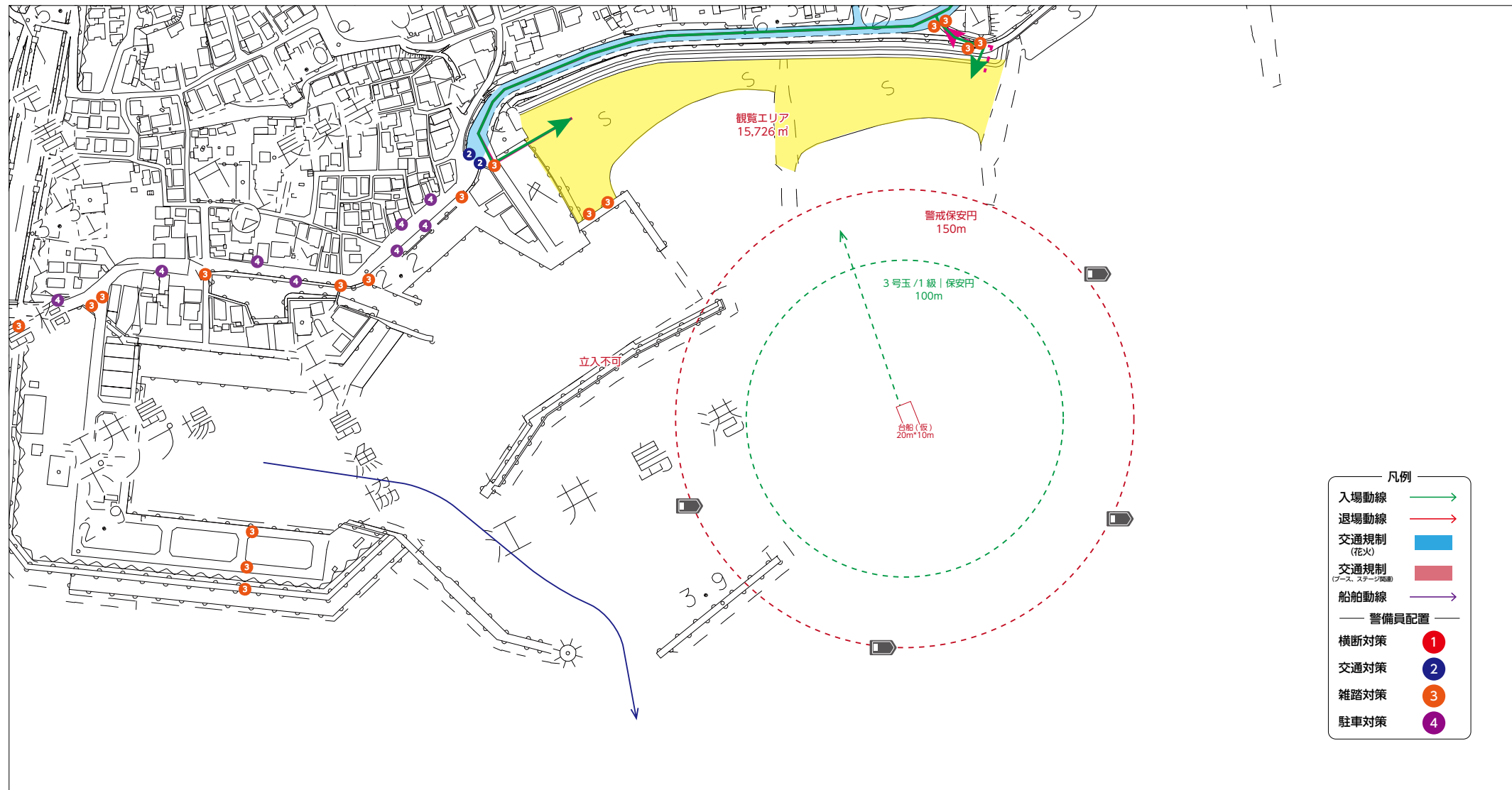
B 案 / 3
江井島港周辺

打上場所

打上場所は江井島海岸沖にスパッド台船を設置し台船上からの打上を想定。プッシャーバージ船を想定しているため係留は本船1隻のみ。
また花火（小型煙火など）を江井島外海の観覧場所に向け、観覧場所から打上花火の全体が楽しめるようにし、観覧場所での観覧を促している。

保管距離

3号玉2級で想定し保安距離は100mを周辺に確保。さらに警戒保安円を半径150mで確保。警戒保安円上に警戒船を配置し、漁港から出入りする漁船の航路管理、一般のプレジャーボートなどの進入に備え警戒をおこなうバウファを設けた。

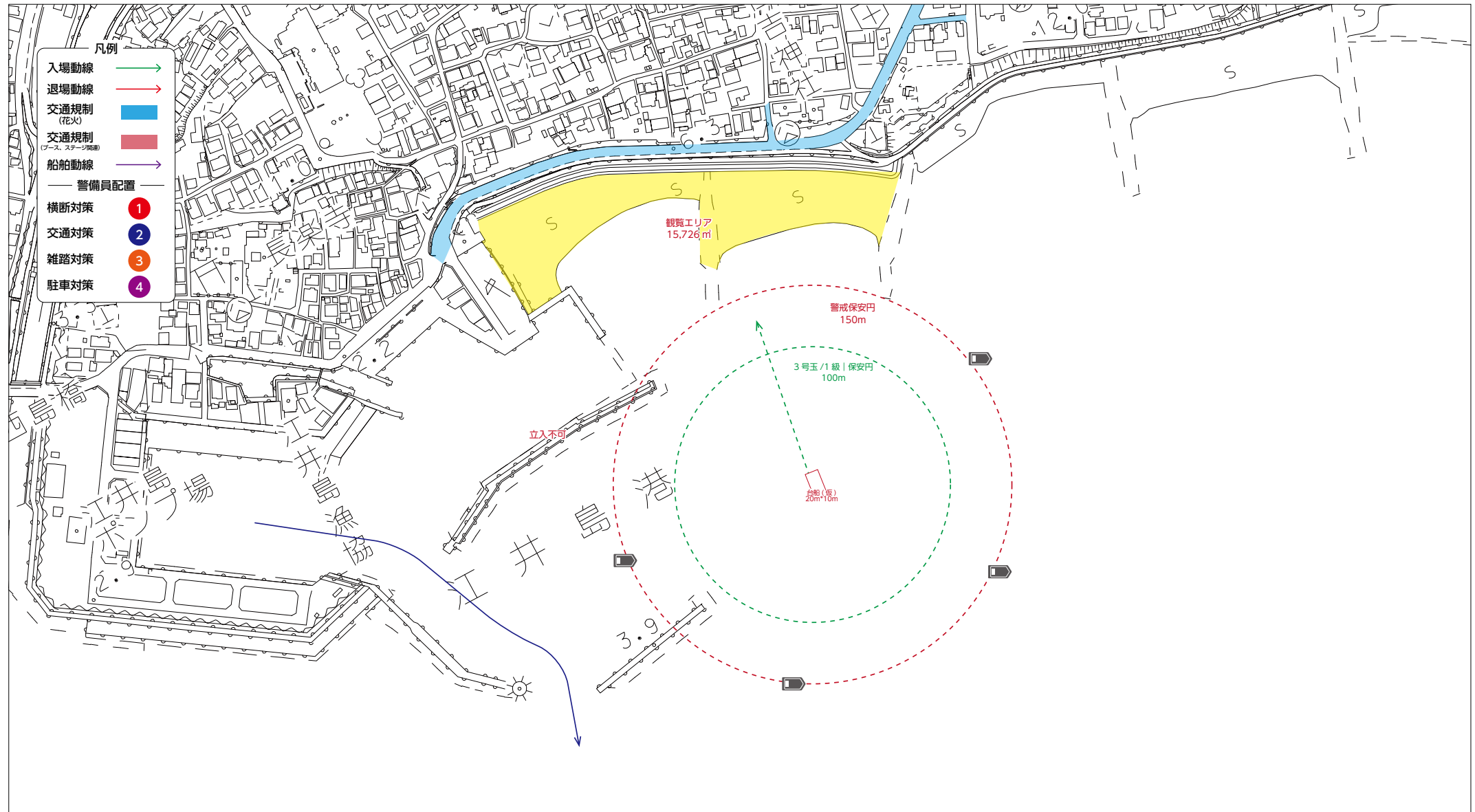


観覧場所の詳細

名称 / 江井島海岸 所在地 / 〒674-0064 兵庫県明石市大久保町江井島 面積 / 約 15,726㎡ 交通 / 最寄り駅に山陽電車江井島駅

最大観覧人数

上記有効面積から安全レベルである群衆密度2人で計算し、観覧会場の最大許容人数は約3.1万人と想定。



入退場動線と交通規制

観覧者で近隣に居住している住民については江井島海岸の東西から会場への入退場が想定されるが、東側については、間口が狭く急な坂道となるため、大人数や高齢の方には適切ではない入退場口となっている。そのため、主催者としては西側からの入退場を促すことになるが、海岸北側は見通し良い観覧場所にもなるため、観覧会場まで入らず歩道や道路上で停滞する可能性が十分に考えられる。そのため北側道路の観覧禁止策と共に、歩道や道路上に人がはみ出た際の対策として交通規制の実施前提としている。

また公共交通機関の来場者の多くは江井島駅からの来場が見込まれ、江井島海岸まで歩道のない道路であることから、特に打ち上げ終了後の退場時には大人数が帰路につき道路横の歩行では安全が確保できないため、駅までの道路、また影響のある枝線までの交通規制を実施する必要がある。ただし規制エリア内に明石市消防局 江井島分署や江井島交番があるため、緊急時の車両動線などにも配慮が必要である。

- 江井ヶ島大久保停車場線の江井島海岸西側から江井ヶ島交差点までの交通規制を実施
- また上記の規制により枝線となる一部も転回場所の確保ができたため交通規制を実施
- 見通しの良い北側の車道、歩道での観覧防止対策

安全対策（駐車）

コインパーキングなどが数少ない場所のため、車両での来場は少ないと想定されるが、漁港北側などで送迎をおこなう車両が想定される。また、交通規制に伴い通行車両も少なくなるため、そのまま駐車や停車しての花火を観覧するケースもでてくるため、漁港北側に駐車対策の警備員の配置が必要となる。

安全対策（観覧）

漁港内で一般観覧者が観覧をおこなうと踏みつけなどによる船具、漁具の破損が想定できるため、一般観覧は禁止とし、漁協関係者以外は立入の制限をおこない、観覧場所へと警備員で誘導をおこなう必要がある。そのため、漁協へ事前相談において開催に向けての趣旨や対策への合意があることを前提としている。

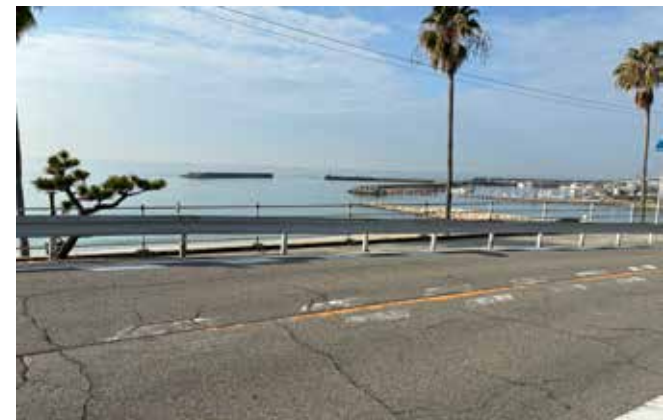
また、海岸北側については、観覧エリアに大人数がいても、打ち上げ場所となる台船までを見下ろすことができ絶好の観覧スポットとなる。そのため観覧場所まで進まずにこのエリアに立ち止まり観覧することが想定され、入場時においては、運営スタッフの観覧会場への誘導や観覧禁止の表示などをおこない、観覧会場までスムーズに案内する。

海岸内の突堤においても足元が悪く夜間のため転落などのおそれがあるため、人為的に立入禁止とし運営スタッフなどが立ち、観覧の禁止を促す。

退場時の安全確保安全対（観覧）

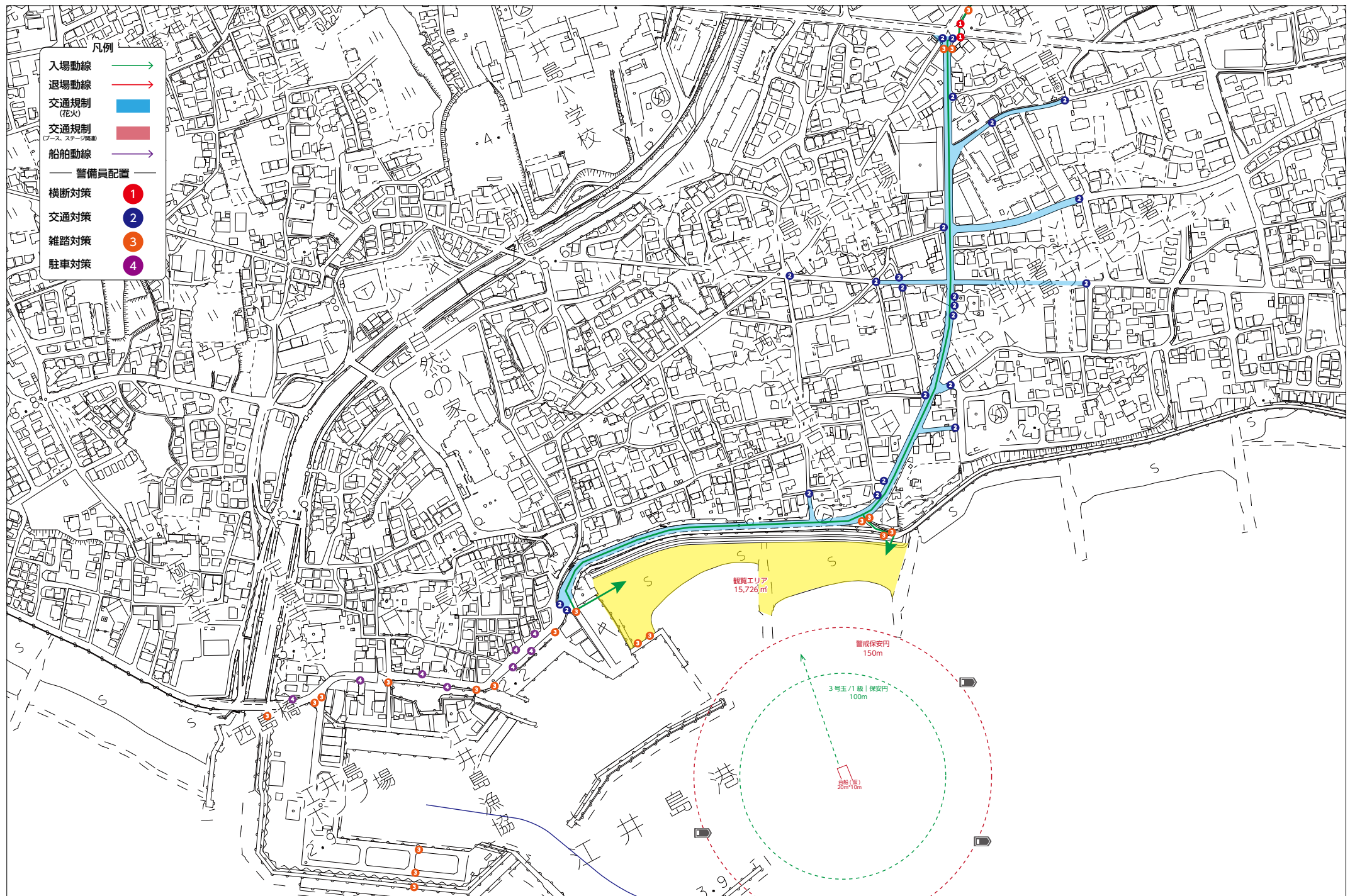
江井島海岸の西側は収容人数に比べ間口が狭いため、退場する観覧者が集まり雑踏が発生する恐れがある。そのため観覧者の退場方法については、観覧エリアを区切りブロック退場をおこなうや、分断ロープを使うなど、1ヶ所に多くの人間が集まらない工夫や一斉に多くの人間が動く対策をおこなうことが必要となってくる。

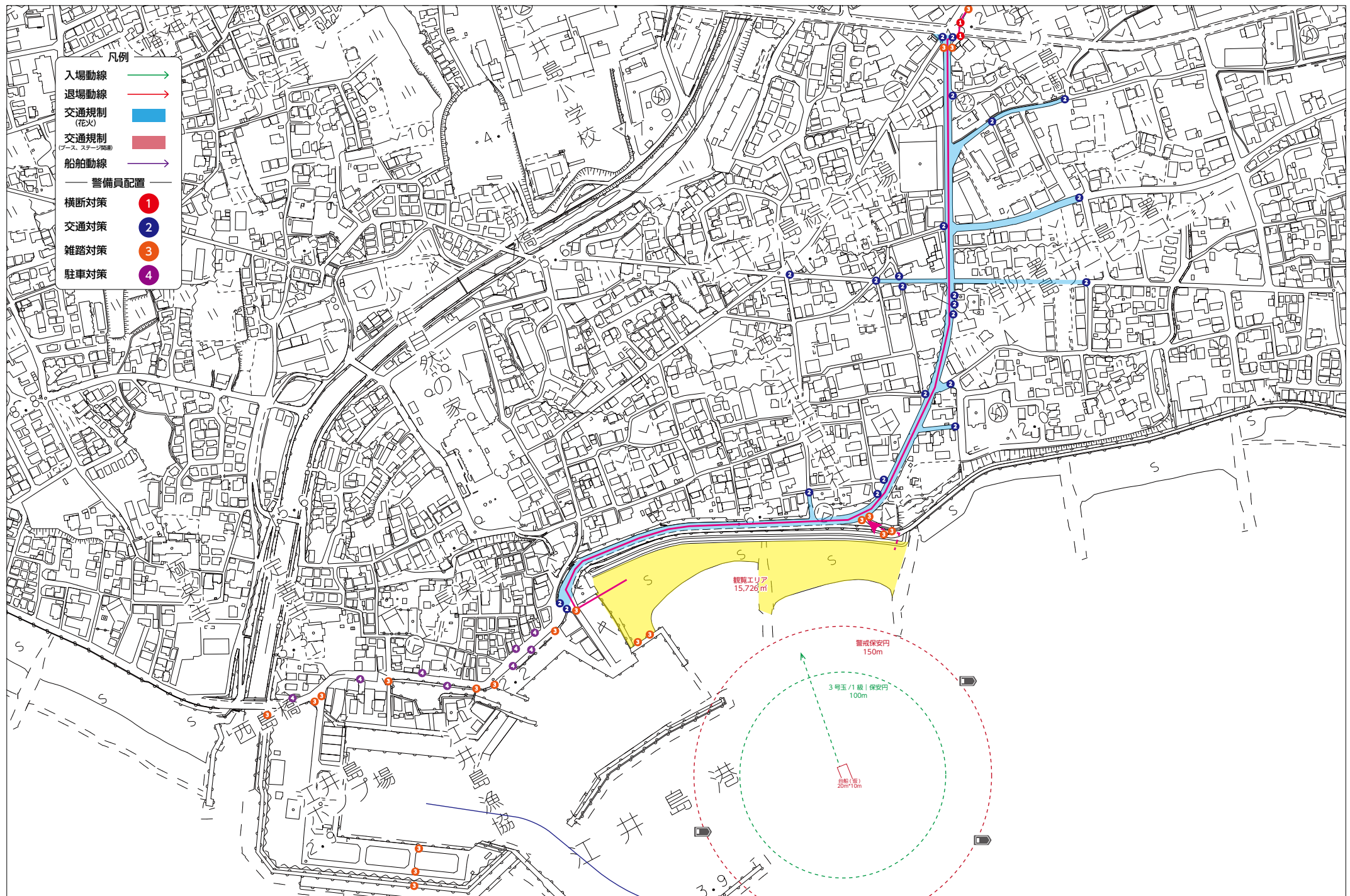
また周辺居住者が広く自転車などで集まる可能性もあるため駐輪場の場所を確保する必要があるとともに、退場時の混雑と切り分けられる場所に駐輪場を設定するなどの工夫も必要となってくる。



調査時点の警備配置案や必要最低限必要となる主催者人数、警備員人数、運営スタッフの人数。

カテゴリ	役割	人数
主催者	会場管理（会場管理責任者、陸上警備責任者、海上警備責任者）	3人
警備	本部員 / 会場警備本部に待機	3人
	横断対策員 / 周辺道路の横断対応や乱横断の防止対応	2人
	雑踏対策員 / 観覧エリアではない場所や危険個所の観覧者排除など	22人
	駐車対策員 / 駐車禁止エリアや交通混乱を招く駐停車の排除など	23人
	交通対策員 / 交通規制の対応や交通に関する全般対応など	8人
	遊撃警備員 / 想定外の対応や既存配置の警備員のサポートなど	10人
小計		68人
運営	会場管理、事後清掃などをおこなうスタッフ	10人





B 案 / 4
二見港周辺

分散型（B案）の4ヶ所目の候補として、西岡海浜公園を観覧場所、観覧場所沖、二見港東側を打ち上げ場所として設定。

全体概要

花火の打ち上げ数750発（最大3号玉：保安距離100m）を仮定し、西岡海浜公園を主催者からの観覧場所として設定。打上場所は海上の台船上とし、観覧場所から一番花火が綺麗に見えるように配置した。

西側には二見ボートパークがあり、多数の船の往来が予想される。また、東二見橋の上からの観覧なども想定できる場所となっていることから、警戒船を船の往来航路の安全確保と保安円への進入を防ぐ役割で合計6隻を図面上に配置。

現地本部

現地本部は西岡海浜公園内に、主催責任者、運営責任者、警備責任者、また安全に必要な行政機関の現地管理場所として設置。（テント3張程度を想定）

観覧者

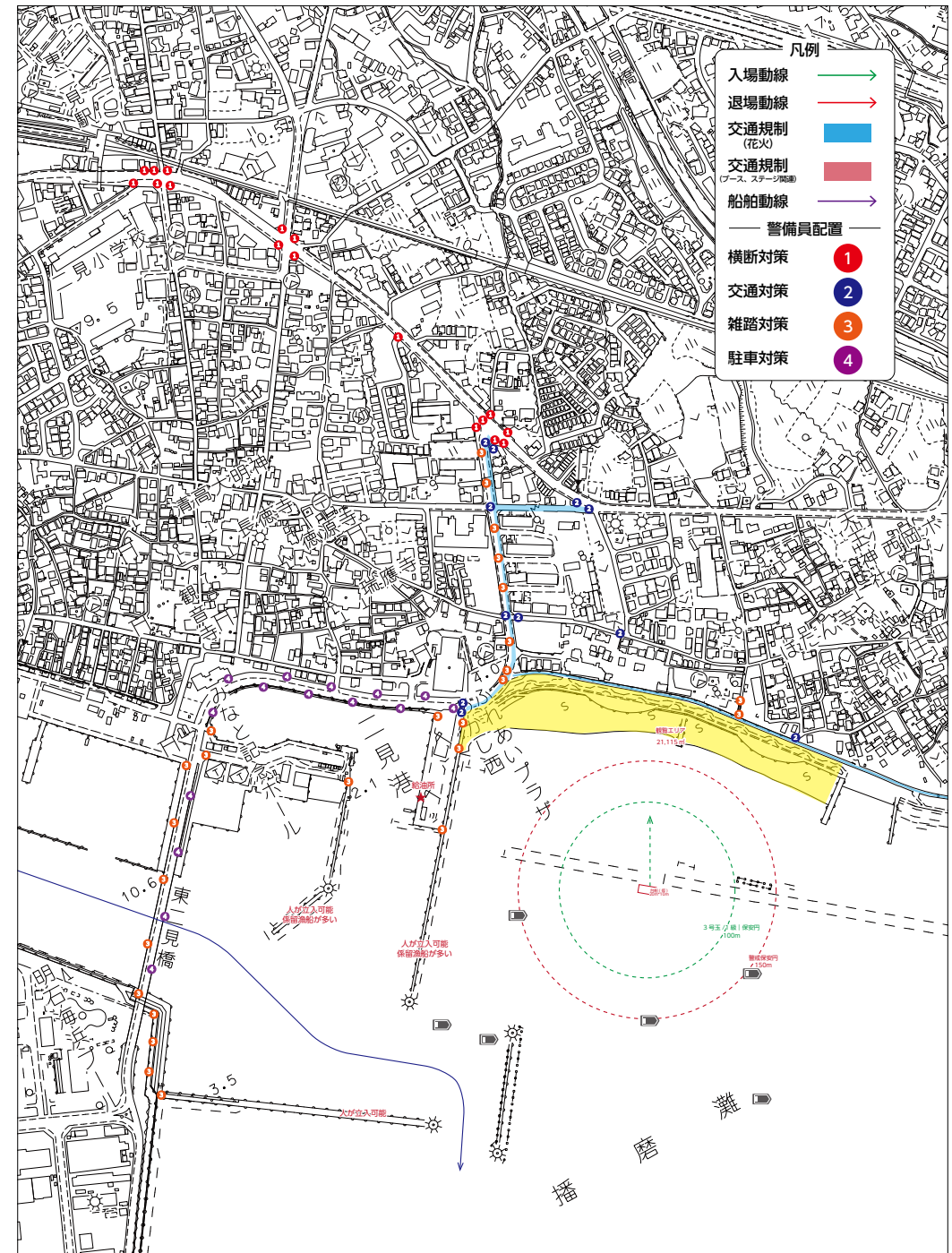
有料駐車場の少ないこの会場での観覧者は、地元住民を中心とし、周辺駅に山陽電車 東二見駅があることから、電車で来場が可能な観覧者が来場すると想定される。また、車での観覧者も想定されるため、駐車対策などが必要となってくる。

海上対策

西側の二見ボートパークから多数の船の往来が予想されたり、船上観覧者も参集する可能性もあり、警戒船を船の往来航路の安全確保と保安円への進入を防ぐ役割で合計6隻を図面上に配置。船上観覧が集まるケースも想定し遊撃で安全な観覧を促したり、安全な航行を目的に海上交通を整理する遊撃船も含んでいる。

実施に向けての課題

- 東二見橋からの観覧（歩行、駐車）防止策
- 歩行者、自転車対策で主要駅からの交通規制が必要
- 駐輪場の場所の確保が必要
- 大型ボートパークも近く海上からの観覧にも注意が必要である
- 会場の間口が狭く終了後などの一斉退場などは混乱が生じる恐れがあるため、終了後の対策が必要となってくる
- 海上給油所が付近にあるため改めて法令や安全に配慮した契計画が必要

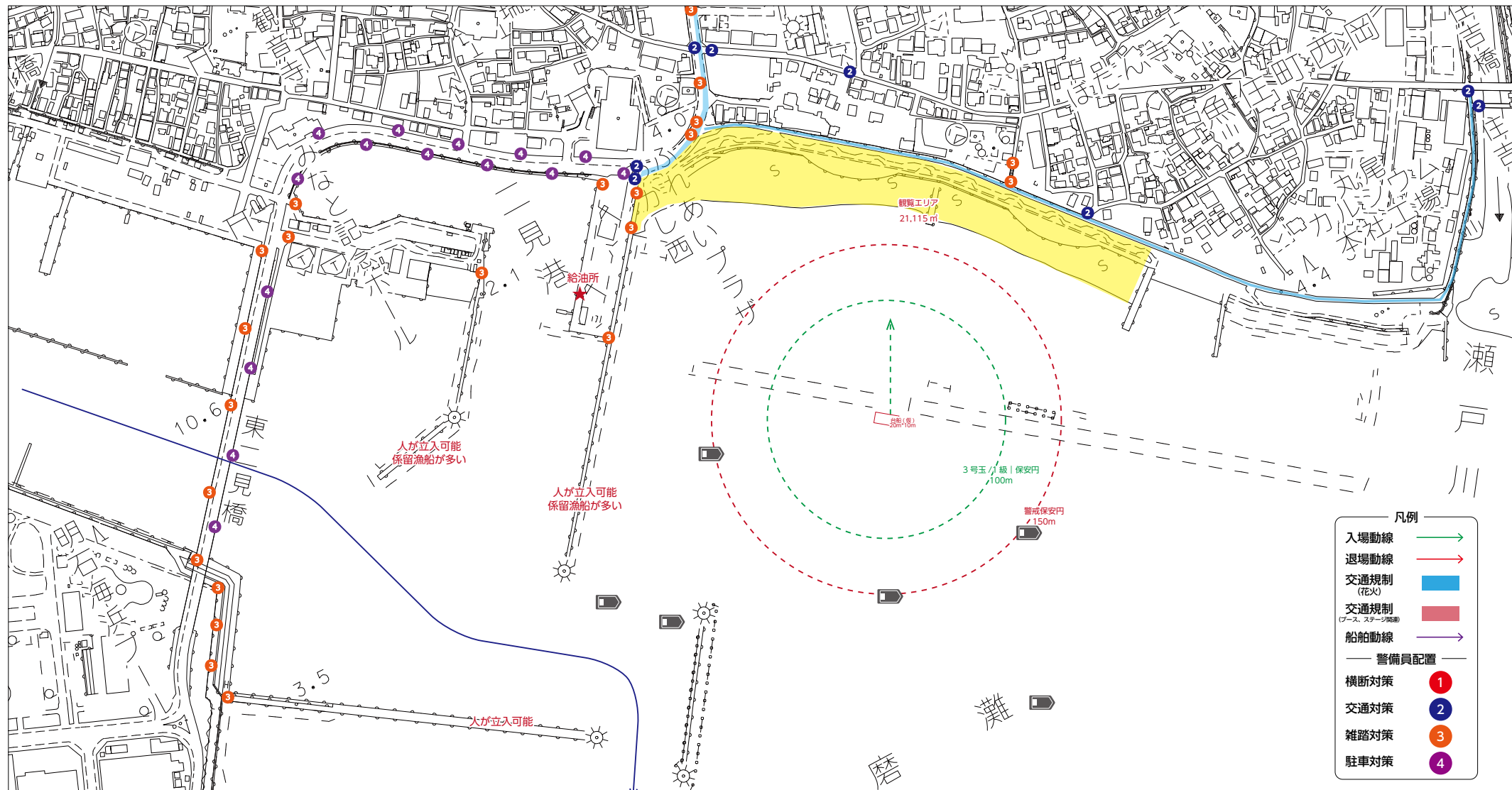


打上場所

打上場所は西岡海浜公園沖テトラの間にスパッド台船を設置し台船上からの打上を想定。プッシャーバージ船を想定しているため係留は本船1隻のみ。
また花火（小型煙火など）を西岡海浜公園の観覧場所に向け、観覧場所から打上花火の全体が楽しめるようにし、観覧場所での観覧を促している。

保管距離

3号玉2級で想定し保安距離は100mを周辺に確保。さらに警戒保安円を半径150mで確保。警戒保安円上に警戒船を配置し、一般のプレジャーボートなどの進入に備え警戒をおこなうバッファを設けた。

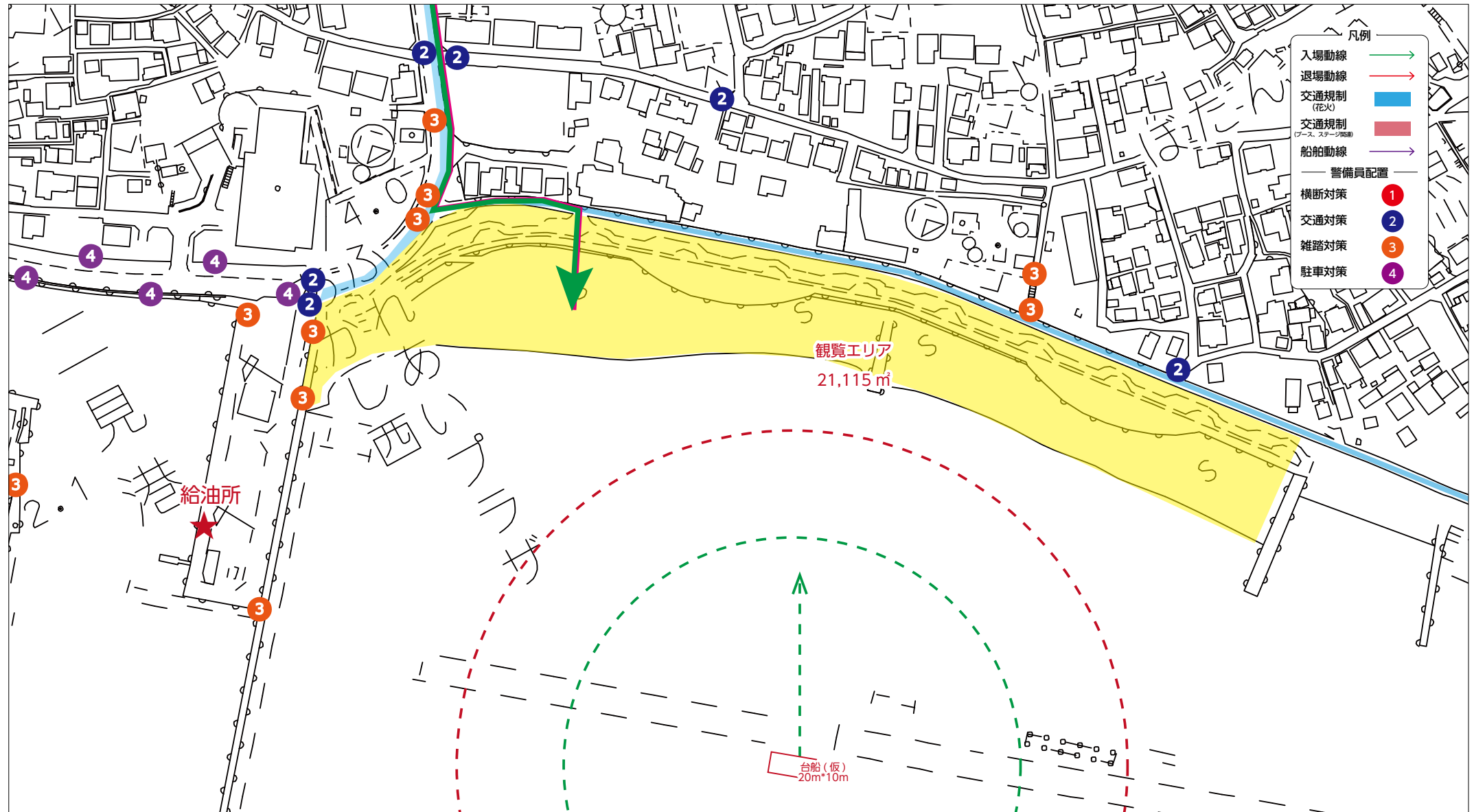


観覧場所の詳細

名称 / 西岡海浜公園 所在地 / 〒674-0084 兵庫県明石市魚住町 面積 / 約 21,115㎡ 交通 / 最寄り駅に山陽電車東二見駅

最大観覧人数

上記有効面積から安全レベルである群衆密度2人で計算し、観覧会場の最大許容人数は約4.2万人と想定。



入退場動線と交通規制

観覧者で近隣に居住している住民については西岡海浜公園の東西から会場への入退場が想定される。

西岡海浜公園のすぐ北側の道路は1車両のみ通行可能程度の道幅のため、歩行者や自転車との離合も危険なため交通規制を実施し、東西から安全な入退場を確保する必要がある。ただし、最寄り駅である東二見駅から来る観覧者を想定すると、多くは西側からの入退場がメインになると想定される。

入場時は時間をかけてパラパラと来場する傾向があるが、退場時は一斉に帰路への動きが始まるため、現状の歩道では歩行者が車道にはみ出たり、多くの自転車が車道を走ることになり事故の危険性があるため、西岡海浜公園西側から明石高砂線（県道718号線）までの車両交通規制を実施する必要がある。

- 明石高砂線（県道718号線）から西岡海浜公園西側までの南行きの交通規制を実施
- 南行の枝線となる一部も交通規制を実施
- 西岡海浜公園北側道路の交通規制の実施（明石市道魚住51号線まで）

安全対策（駐車）

西岡海浜公園西側から東二見橋までの道路は、停車しての観覧や乗降の為の一時駐車などが想定され、それにより交通の安全が確保できない可能性があるため、車両の駐車禁止対策をおこなうため断続的に警備員を配置し対策をおこなう必要がある。

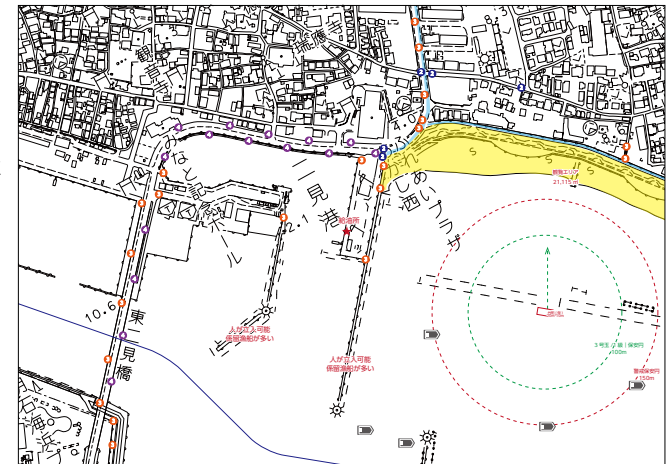
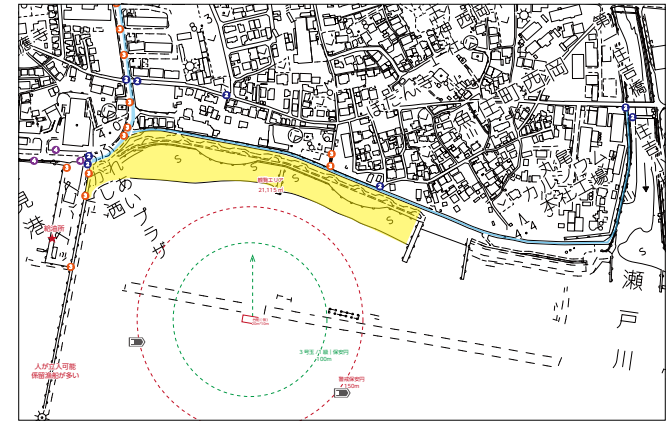
安全対策（観覧）

主催者観覧場所以外での観覧は車両も通行するため原則断り、観覧会場である西岡海浜公園に誘導をおこなう必要がある。特に東二見橋の上や西岡海浜公園西側直ぐの防波堤などは人が立入でき、夜間は特に安全の確保ができないため、重点的に警備員を配置し危険箇所からの観覧を防ぐなどの対策が必要である。

退場時の安全確保安全対（観覧）

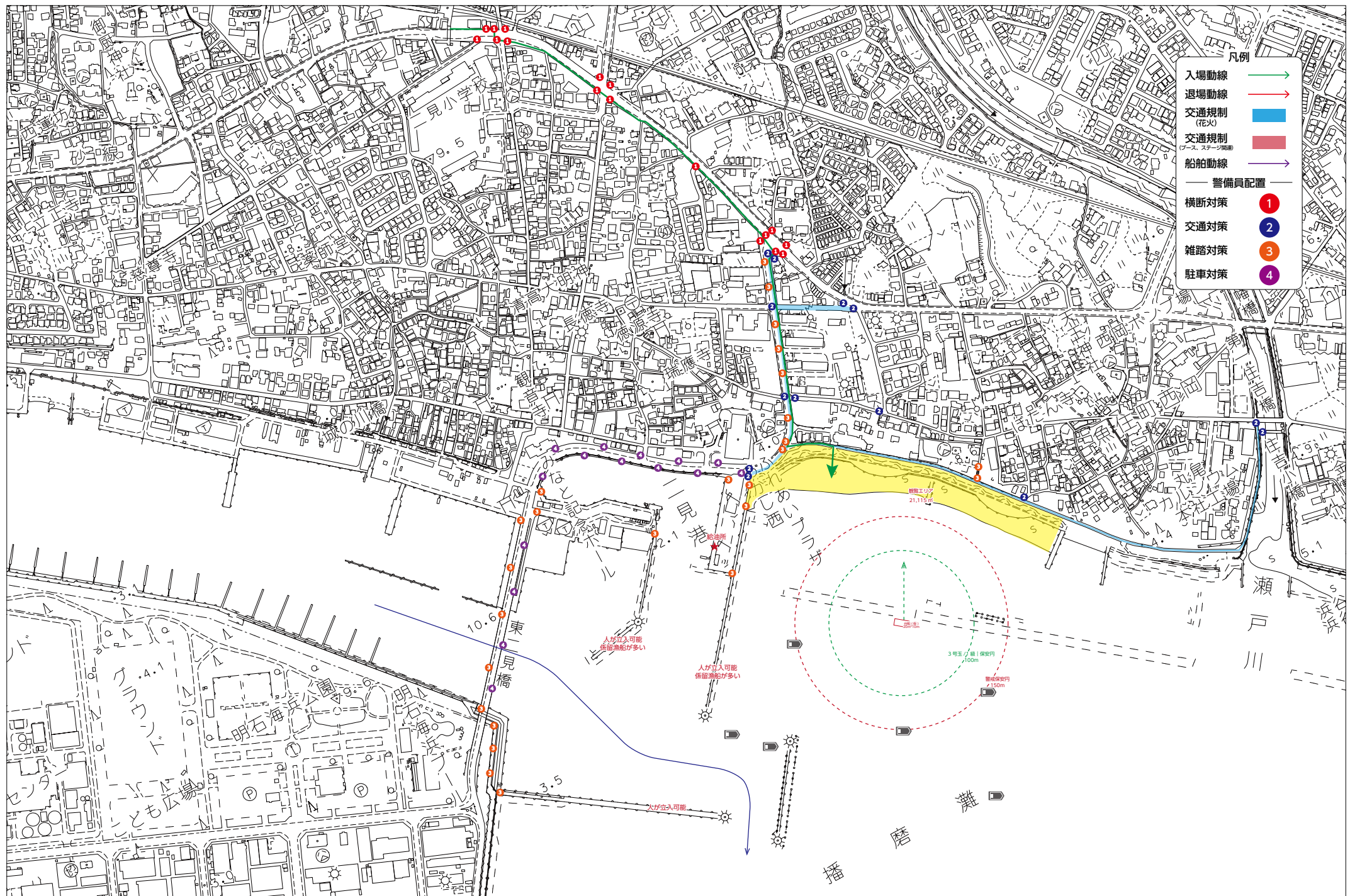
西岡海浜公園の西側以外は会場出入口が限定的となっている場所が多く、来場する人数によっては退場する観覧者が集まり雑踏が発生する恐れがある。そのため観覧者の退場方法については、観覧エリアを区切りブロック退場をおこなうや、分断ロープを使うなど、1ヶ所に多くの人間が集まらない工夫や一斉に多くの人間が動く対策をおこなうことが必要となってくる。

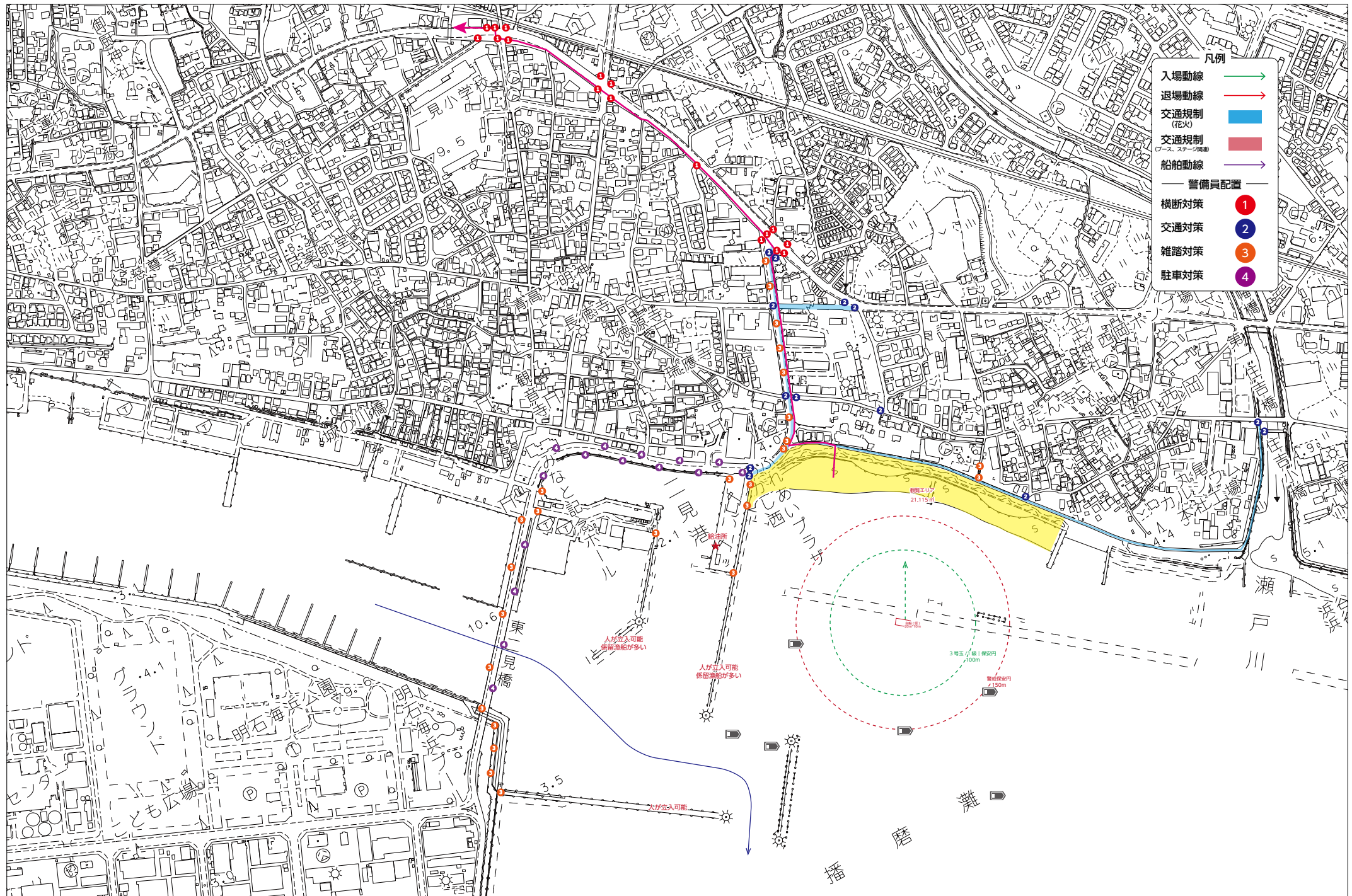
また周辺居住者が広く自転車などで集まる可能性もあるため駐輪場の場所を確保する必要があるとともに、退場時の混雑と切り分けられる場所に駐輪場を設定するなどの工夫も必要となってくる。



調査時点の警備配置案や必要最低限必要となる主催者人数、警備員人数、運営スタッフの人数。

カテゴリ	役割	人数
主催者	会場管理（会場管理責任者、陸上警備責任者、海上警備責任者）	3人
警備	本部員 / 会場警備本部に待機	3人
	横断対策員 / 周辺道路の横断対応や乱横断の防止対応	17人
	雑踏対策員 / 観覧エリアではない場所や危険個所の観覧者排除など	26人
	駐車対策員 / 駐車禁止エリアや交通混乱を招く駐停車の排除など	13人
	交通対策員 / 交通規制の対応や交通に関する全般対応など	15人
	遊撃警備員 / 想定外の対応や既存配置の警備員のサポートなど	10人
小計		87人
運営	会場管理、事後清掃などをおこなうスタッフ	10人





B：会場分散型花火大会をおこなう場合の交通規制エリアの一覧

エリア	場所	規制時間
B-1/ 明石市役所周辺	<ul style="list-style-type: none"> 明石市役所一帯 市道明石中央 12 号線（観光道路） 市道中央 53 号線（一部規制） 	開始 / 開催前 4 時間 終了 / 花火打ち上げ終了から 4 時間程度
	<ul style="list-style-type: none"> 明石市役所一帯 国道 28 号線（大蔵町南～錦江橋南詰） 明石銀座通り（錦江橋南詰～市道大明石 1 号線合流点） 県道 718 号線（明石銀座通～市道明石中央 42 号線合流点） 市道中央 53 号線（中崎 1 丁目～市道明石中央 5 号線合流点付近） 	開始 / 花火打ち上げ 3 時間前 終了 / 花火打ち上げ終了から 4 時間程度
B-3/ 江井島港周辺	<ul style="list-style-type: none"> 江井ヶ島大久保停車場線の江井島海岸西側から江井ヶ島交差点まで 枝線の一部 	開始 / 花火打ち上げ 2 時間前 終了 / 花火打ち上げ終了から 2 時間程度
B-4/ 二見港周辺	<ul style="list-style-type: none"> 明石高砂線（県道 718 号線）から西岡海浜公園西側までの南行き 南行の枝線一部 西岡海浜公園北側道路（明石市道魚住 51 号線まで） 	開始 / 花火打ち上げ 2 時間前 終了 / 花火打ち上げ終了から 2 時間程度

B-1 明石市役所周辺については B：会場分散型花火大会ではあるがブース、ステージイベントの開催もあり、来場の絶対数も多いことから近隣の影響や事故などの可能性は十分にあるため、初年度においては安全を重視し、A：従来型花火大会と同様の交通規制を実施する計画となっている。そのため、A：従来型花火大会-1 の影響に加え、B-3、B-4 の交通規制が加わることとなる。

B: 会場分散型花火大会は、打ち上げ時間も短く、近隣自治体などの事例にもみられるように、直前での来場、直後の退場となる傾向がある。大人数が観覧エリアなどで超時間滞在する可能性は少ないため、交通規制時間も打ち上げ時間の前後 2 時間で設定をおこなっている。

ただし、B: 会場分散型花火大会は交通規制実施箇所も増えるため、警察などの関係機関などとも十分に協議を重ね、対応人員などにも十分に配慮し時期を設定する必要がある。

A：従来型花火大会－1 明石市役所周辺の「地元対策を求められる内容及び対策（騒音、ごみ処理、交通規制等）」に加えての開催となるため、ここではB－1 明石市役所周辺を除くB－2～4についてまとめている。

来場者ゴミの対策

各会場に清掃スタッフを配置し観覧エリアや周辺の清掃にあたる。B：会場分散型花火大会では交通規制項目でも記載した通り、近隣自治体などの事例にもみられるように、直前での来場、直後の退場となる傾向があるため、飲食物の持ち込みなども少ないと想定されるため、現状の人員で十分対応が可能と想定できる。

来場者の遮熱対策

開催時期にもよるが、明石市役所周辺に比べ他の3エリアについては近隣のコンビニエンスストアや自動販売機も限られているため、訪れた来場者の熱中症なども十分に考えることができる。よく花火大会に見かける露店などは、大会そのものの収益という側面もあるが、限られたスペースに飲食物が無いことで熱中症などの傷病者を減らす目的もある。そのため、開催時期によっては、観覧エリア付近の商店などの協力のもと、飲料などの販売などをおこなうことも想定しておく必要がある。

交通規制の影響

明石市役所を除く3エリアについては、住宅がメインの場所も多く、居住者にとっては大きな影響が出ることも想定される。ただ、直前の規制では規制エリア内から出庫する車両などで規制が行えなかったり、混雑時の車両移動の可能性も十分に考えることができるため、居住者用の車両証などの各エリアごとに発行し、一般車両の交通規制と居住者の交通規制時間帯などを分けて運用することも考えられる。その際は各自治会などと十分に協議を重ね、安全対策であることを理解していただく必要がある。

花火打上の影響

A：従来型花火大会（二見人工島）| 前提となる課題 | 参考資料（2024/07/14/ AREA DIGITAL から一部転載）にもあるように、花火は空中から爆発音がおこるため想像以上に遠方まで音の影響があり、恒例化されていないことで不愉快と感じる居住者がいることも想像できる。分散型のため打ち上げ時間が短いとはいえ、3エリアについては距離が近い周辺に多く住宅地がみられるため、自治会などに花火の影響について十分に事前に説明をおこなうことが必要である。

漁協への影響

B－2～4については横に漁港があることから、大勢の観覧者が押し寄せることで漁港内の船具、漁具などの破損などの可能性も十分に想定できる。現在の調査案では漁港内の立ち入りを制限しているが、特に11月の海苔のシーズンになると24時間での作業も珍しくなく、漁協関係者などの立ち入りを制限することはできない。そのため、各漁協と協議をおこない、時期によっては一般観覧者を除いて関係者のみが立ち入ることができる方法など個別に調整していく必要がある。

また、警戒保安円や海上交通の安全確保のため、近隣の漁協から船舶を出してもらうなどの必要があったり、潮流によっては打上後の花火カスなどが海上浮遊ゴミとして、のり網などに影響を及ぼすことも否定できない。

さらに、海上のプレジャーボートからの観覧も想定でき、通常操船をおこなわない慣れない夜間の航行の影響でのり網などに乗り上げることも事例として多くみられる。また防波堤などへの衝突などで燃料が海上に漏れ周辺に影響を及ぼす可能性もあるため、海上からの観覧者対策についても、十分に各漁協と協議を重ね広報や対策をおこなっていく必要がある。

(参考)

神戸港で2016年8月6日、防波堤にプレジャーボートが衝突して沈没し、8人が負傷した事故で、神戸海上保安部は18日、沈没したプレジャーボート「グリーンメディカル9号」の引き揚げ作業を行った。事故は6日午後8時40分ごろ、神戸市中央区の神戸港の入り口にある第1防波堤で発生。同日夜の「みなとこうべ海上花火大会」を海上のボートで観覧した後、港の外に出ようとしておつかったとされる。同保安部によると、ボートは第1防波堤北側約10メートルで、水深約12メートルの場所に沈没していた。作業は18日午前8時半ごろから始まり、ボートにワイヤなどを取り付け、クレーン台船や複数の作業船によって引き揚げられた。ボートは船首部分が大きく破損していた。



A 案 / B 案
共通項目

花火大会実施に伴い下記の認可や申請などが必要と想定される。

(観覧エリア)

- 公園管理者などへの使用届
- 所有者（兵庫県、明石市）などへの使用届
- 催物開催届（警察）

(交通規制)

- 道路使用許可（警察）※交通規制実施の場合
- 道路占用許可（道路管理者）※交通規制実施の場合
- 道路通行止めに関する許可（警察他）※交通規制実施の場合
- 規制告知の設置許可（国道事務所、警察他） ※設置場所により個別に必要

(花火)

- 火薬類消費許可申請（兵庫県）
- 危険物船舶運送及び貯蔵規則第 388 条に基づく船舶による危険物運送基準等を定める告示別表 17 に係わる認可（国土交通省）
- 港内行事許可申請（海上保安庁）※一部エリアのみ
- 海上作業届（海上保安庁）※一部エリアのみ
- 3号玉のため開催連絡のみ（国土交通省 大阪航空局関西空港事務所）

<p>開催 1年 以上 前</p>	<p>明石市役所に実行委員会事務局を設け、開催に向けて周辺自治会や商業施設などへの説明をおこないながら、開催計画の策定をおこなっていく。開催計画では、警備面や花火など専門的な知識や、計画を図面に落とし込むなどの作業も発生するため、計画業務自体を委託することも視野に入れておく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 実行委員会などの設立。 • 影響のあるエリアの自治会や商工会議所などへの開催趣旨や影響の説明。開催課題の抽出。 • 開催時期や開催方法の検討 • 開催予算や計画予算の策定（協賛計画の準備） • 陸上、海上の関係機関への情報共有 • 実施計画や警備計画書の策定
<p>開催 1年 以内</p>	<p>策定した開催計画に基づき、開催に向けて具体的な課題解決や運営方法を取り決めていったり、開催に必要な資機材、スタッフ、ボランティアなどの手配準備に着手していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 開催時期のステークホルダー向け広報 • ステークホルダーに向けての開催課題の解決方法の提示や合意 • 協賛社の募集計画や協賛事務 • ボランティア運用計画の策定 • 出店者などの募集計画の策定 • 陸上、海上の関係機関へ実施に向けて警備計画などの相談 • 広報計画の策定 • 予算計画の策定 • 打ち上げ用花火の手配
<p>開催 半年 以内</p>	<p>開催広報を実施し開催に向けての具体的な案内、募集、準備をおこなう。また、運営計画もより具体的に取り決めていくフェーズとなるため、運営を委託事業とする場合は、このタイミングまでに事業者の決定が必要となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 開催広報、交通規制広報の実施 • ステークホルダーに向けての開催課題の解決方法の提示や合意 • 協賛社の募集や協賛事務 • ボランティア募集や運用方法の決定 • 出店者などの募集や出店に向けての案内 • 資機材の手配 • 花火打ち上げに必要な申請手続き • 運営マニュアルの決定 • 警備計画の決定、警備員の手配 • 陸上、海上の関係機関へ実施に向けて警備計画などの決定 • 有料観覧席や指定観覧エリアの募集広報や販売 • 海上警戒船の手配 • 周辺係留場などへの観覧自粛広報の実施 • 大規模災害などの避難マニュアルなどの策定

近隣自治体の神戸市などでは2019年までは「みなとこうべ海上花火大会」を実施していた。みなとこうべ海上花火大会の打ち上げ地点は神戸港の第1防波堤北側より打ち上げ、ウォーターフロントを囲むように観覧エリアを配置していた。このように花火は高く打ち上がり、どこからでも見ることができるといったメリットがあり、広く観覧エリアを設けることが可能となる。一方で、観覧者が広いエリアに渡り訪れることから、来場者コントロールという側面では広域にわたり対策が必要となるデメリットもある。

今回の明石市花火大会では、A：従来型花火大会の場合、B：会場分散型花火大会の場合を想定しているが、どちらも観覧エリアを設けており、そこに観覧者を集めてコントロールする前提で調査をおこなっている。そのため、観覧者が観覧エリアに集まるよう花火においても工夫が必要となってくる。

A：従来型花火大会 / 観覧エリアへの来場

- スピーカーなどを設置し音楽と合わせて打ち上げる音楽花火を実施。観覧エリアでみるメリットを広報し、観覧エリアでは本来の花火が楽しめるメリット付与していく。
- 広い海上での実施となるため場所のメリットを活かし、一部エリアでは斜め横に打ち上げるなど、正面で観覧することでより広がりのある花火が楽しめるようにしていく。また海面などのリフレクションも楽しめるようにし、観覧エリア以外では見れないメリットを付与していく。
- スターメインだけでなく小型煙火を活用し、打ち上げ地点付近だからこそ見ることでできる低空部への演出を加え、観覧エリアへの引き込みを図る。



B：会場分散型花火大会 / 分散対策①

事前に打ち上げ場所ごとに花火のテーマを設定し広報をおこなうなど、アクセスの良いエリアだけに集中しない分散対策が必要となってくる。

(例)

明石市役所周辺・・・時の花火（淡い色やグラデーション花火などを使用） 林崎漁港周辺・・・海峡の花火（青色や水色などの花火を使用）

江井島港周辺・・・食の花火（名物のタコや卵焼きを連想する色を使用） 二見港周辺・・・歴史の花火（昔ながらの色で見せる花火を使用）

B：会場分散型花火大会 / 分散対策②

各エリアごとの中学校、高校などとタイアップし、事前に花火の色や花火の演出などを一緒に検討。（打上シミュレーションも実施）若年層を巻き込んで明石の花火そのものを構成し、愛着を持って観覧してもらうことで、それぞれのエリアへの引き込みを狙う。



他自治体で実施する花火大会に関する調査

大会名（自治体）	みなと HANABI（神戸市）	加古川市花火大会（加古川市）
狙い	<ul style="list-style-type: none"> 神戸市独自の夜型コンテンツの実施を通して、神戸ウォーターフロントの活性化を図る 来場者の分散を図ることによる安全確保 交通規制の実施等による地元負担を軽減 周辺への波及効果（観覧場所が市街地に近い特性を活かし、イベント終了後の周遊を促している）。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民のふるさと意識の高揚を図るために花火大会を開催している。 市民を対象とした事業であり、自宅や自宅の近くから花火を見てもらう想定である。 令和元年度までは「加古川まつり」として市内全域で市民のためのイベントが開催されており、花火大会は「加古川まつり」の一部であった。 令和元年度は打上時間 45 分、最大花火玉 6 号、花火打上発数約 5,000 発。令和 7 年度は分散型開催で打上時間 15 分、最大花火玉 4 号、花火打上発数各約 500 発（合計約 3,400 発）。
開催方法	<p>平日 5 日間の分散型花火として実施。 神戸市を中心に京阪神エリアから集客を行い実施。</p>	<p>具体的な打上場所を公表せず、加古川市民向けの広報のみとし、市内複数か所で同時に打ち上げる花火大会を実施。</p>
来場者数	107,370 人	非公開
予算	9,250 万円	7,313 万円
備考	<p>上記の狙いがメリットであるほか、来場者の評価や満足度は高水準で推移してきている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 打ち上げできる場所が限られており、打上場所が市民に予想されやすい。 打上場所に来る観覧者が年々増加している。 全ての市民が家の近くから花火を見ることができるわけではない。 花火が見える範囲が広く、警備エリア以外に観覧者が参集している場所がある。